

学校法人和歌山信愛女子短期大学
和歌山信愛女子短期大学
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

和歌山信愛女子短期大学の概要

設置者	学校法人 和歌山信愛女子短期大学
理事長名	森田 登志子
学長名	金井 壽男
ALO	吉村 正明
開設年月日	昭和26年4月1日
所在地	和歌山県和歌山市相坂702-2

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活文化学科	生活文化専攻	40
生活文化学科	食物栄養専攻	50
保育科		100
	合計	190

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

和歌山信愛女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 7 月 3 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、前身の桜映女学校の開校以来 62 年の歴史を有し、カトリック精神に基づき、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性の育成に邁進している。在学生の多くは地元出身者であり、和歌山県における高等教育機関として社会に多大な貢献をしている短期大学である。

建学の精神に基づく教育理念である「信愛教育理念」を具体的に明示するために五つの柱を立て、学生や教職員に対してその共通理解の周知徹底が図られ、カトリック精神に基づいた教育が活発に展開されている。建学の精神・教育理念を教育課程に反映させる科目が開講され、免許・資格の取得にも配慮している。授業内容、単位認定と評価、シラバスもおおむね適切であり、授業改善への取り組みにも積極的である。

教員数、校地・校舎面積は短期大学設置基準を充足しており、諸々の教育環境は整っている。学生の単位取得状況や単位認定の方法も適切で、学生の授業満足度の平均値も高い。退学、休学、留年等の学生数は妥当な範囲であり、これらの学生に対しては全学的に連携して対応している。

学生募集及び入学者選抜は適切に行われている。学生支援は、学習、学生生活、進路などの、どの面においても全学的かつ組織的にきめ細かく行われ、その成果をあげている。就職は希望者のほぼ全員が就職できており、就職先からの卒業生の評価も高い。

各教員の研究活動は一部の教員を除いて良好である。研究活動については、科学研究費補助金等の申請は積極的に行われており、地域と連携したグループ研究も行われている。社会的活動は、建学の精神・教育理念に基づき地域貢献が推進されている。公開講座、文化講座は定着しており、学生のボランティア活動も活発である。

理事会、評議員会、教授会は適切に運営され、監事による監査も規程に基づき行われている。学長選考規程、教授会規程、各種委員会規程等は平成 21 年度より新規に制定又は改正されている。事務の決裁処理も適切であり、就業に関する諸規程も整備されている。学校法人の財務体質はおおむね健全である。中・長期の財務計画の策定はできていないが、毎年度予算は適切に決定され、予算の執行及び出納業務は適正に行われている。

自己点検・評価は、自己点検・評価委員会が委員会規程に基づき行っている。自己点検・評価報告書は、過去3ヶ年、毎年度発行され公表されている。第三者評価については、これを改革・改善の好機と捉えてその成果を積極的に活用しようとしている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

○ 教育理念である「信愛教育理念」を分かりやすく具体的に明示するために5つの柱を立て、学長を中心とした「信愛教育推進委員会」の主導により学生や教職員に対してあらゆる機会を捉えてその周知徹底が図られ、カトリック精神に基づく学生への人間教育が活発に展開されている。また建学の精神・教育理念、各学科専攻の教育目的・教育目標、アドミッション・ポリシーを教職員間で共有するため、冊子『信愛教育』を作成してその徹底を図り、高等学校説明会やウェブサイト等でもそれを公表している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

○ 建学の精神・教育理念を教育課程に浸透させるため、「キリスト教と倫理」、「キリスト教と文化」、「知ることと信じること」、「チャペルアワー」を開設して、ミッションスクールとしてカトリック精神に基づく人生観及び宗教的情操の高揚を図っている。

○ 高等教育機関コンソーシアム和歌山による単位互換制度の実施、「観光を主軸とした知の拠点形成のための戦略的大学連携」事業への参画、インターンシップの単位化、茶道・華道・着付け・マナー等の教育への取り組み、地域と連携した教育への取り組みなど、積極的に実施されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

○ 視聴覚室では、大学改革推進事業として文部科学省に採択された和歌山県高等教育機関連携事業「観光を主軸とした知の拠点形成のための戦略的大学連携」におけるライブ

授業が行われている。そのため、テレビ会議システムやプロジェクタ・スクリーンなどを整備した。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 就職先から聴取した評価を教職員間で共有し授業時間外指導や授業内容の改善を通して学生教育（人材育成）に反映させ、人材育成において職業倫理や社会的常識の習得に取り組んでいる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 退学、休学、留年等の問題のある学生及びその保護者に対して、担任を中心に副担任、学科長、専攻主任、教務、学生相談センターと連携して対応しており、どの学科、専攻も退学者が極めて少ない。
- 基礎学力が不足した学生への学習支援活動として、担任・副担任による個人的支援、ステップアップセミナーの開設、基礎学力を補充する新科目の開講、個人レッスン等が行われている。進度の速い学生や大学への編入を希望する学生に対する学習支援も実施されている。
- 就職支援、就職指導を活発に展開して、各学科・専攻とも、就職希望者のほぼ全員が就職できている。

評価領域Ⅵ 研究

- 科学研究費補助金の申請を積極的に行っており、平成 20 年度は 3 件申請して 2 件採択されている。
- グループ研究として、学科・専攻ごとにその専門性を生かした研究テーマで、地域と連携し地域貢献に寄与する特色ある研究が行われている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 建学の精神・教育理念に基づき社会的活動への取り組みが積極的に推進されており、特に地域社会（行政、商工業、教育機関、文化団体等）と連携した地域貢献プロジェクトが 7 つ実施されている。

（２）向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 監事による業務監査・会計監査は年 1 回と少ない。学校法人の運営上の課題に適切に対処し運営の適正性を確保するために監事機能の強化が望まれる。

評価領域IX 財務

- 財務状況の公開は短期大学内部だけに留められており、私立学校法の規定からして、また社会に対する説明責任を果たす意味でも、印刷物やインターネットにより外部に対して公表することが望まれる。

評価領域X 改革・改善

- 今後の自己点検・評価活動については、学内の教職員全員が何らかの役割を担いながら一致協力して行うことが望ましく、そのことにより教職員が一体となり、改革・改善が着実に実行できるものとする。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神に基づく教育理念である「信愛教育理念」を具体的に明示するために5つの柱を立て、学長を委員長とする「信愛教育推進委員会」の主導により、学生や教職員に対してあらゆる媒体・機会を捉えてその共通理解の周知徹底が図られている。教育理念から導き出された各学科・専攻の教育目的・教育目標にはそれぞれ特色と具体性があり、理解しやすい内容で学則に明示されている。

建学の精神・教育理念の解釈と教育目的・教育目標の点検・見直しは運営会議、理事会、教授会において組織的に行われており、教授会はそれを学生や教職員に周知させる施策を講じている。建学の精神・教育理念は確立され、教育目的・教育目標が明確に示され、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成する、カトリック精神に基づいた教育が活発に展開されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神・教育理念を教育課程に反映させるため「キリスト教と倫理」、「キリスト教と文化」、「知ることと信じること」、「チャペルアワー」を開講している。専門教育科目は各学科・専攻とも十分な内容を備えた開講となっている。専任教員の配置は適切であり、授業内容は短期大学のレベル、授業の単位認定と評価もおおむね適切に行われている。

各学科・専攻の教育課程は免許・資格の取得に配慮した開講になっており、授業形態バランスや必修・選択バランスは良好で、卒業要件も適切である。シラバスは、おおむね授業の概要を示す内容になっており、学生が理解しやすいように作成されている。

授業改善への取り組みはファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会の主導により組織的に行われており、学生による授業評価、「信愛教育研究会」による建学の精神に基づく教育実践活動への取り組み、学外のFD研修会への参加、全教員を対象とする(FD)宣言など、授業内容・教育方法の改善に努力している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は整備されており、各学科・専攻とも短期大学設置基準の教員数の規定を充足している。各教員は短期大学の教員にふさわしい資質を有し、授業、学生指導、事務分掌等に熱心に取り組んでいるが、一部に研究活動の成果が上がっていない教員が見受けられる。教員の年齢構成はおおむねバランスがとれている。教員の採用・昇任は、平成21年度より教員選考規程を設けて人事の透明性を確保する改善がなされた。

校地・校舎面積は短期大学設置基準の規定を充足しており、講義室を始め各種教育施設などは整備されている。授業用の機器・備品についてもおおむね備わっている。図書館も座席数、蔵書数、学術雑誌数等はおおむね整備され、学生が利用する図書も備えられている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成度においては、学生の単位の取得状況がおおむね良好であり、単位認定の方法も適切である。学生の授業評価による授業満足度の平均値も高く、目標がおおむね達成されている。教育目標の達成のため、各教員は授業評価の結果を踏まえて、更なる授業改善に努力している。

退学、休学、留年等の学生数の状況は各学科・専攻で異なるが、全学的にみると妥当な範囲内であり、これらの学生に対しては担任を中心に全学的に連携して対応している。

栄養士、幼稚園教諭・保育士としての専門就職の割合は高く十分である。卒業生の就職先からの評価、卒業生の短期大学に対する卒業後評価についてはアンケートをそれぞれ実施しており、おおむね高い評価結果を得ている。学生の卒業後評価への取り組みの努力がなされている。卒業生との交流は、担任とのクラス会等により頻繁に行われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

短期大学案内には建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標、望ましい学生像等が明示され、学生募集要項には各入試区分の入学者選抜方法が明記されている。受験生からの問い合わせには入試委員会が窓口となり応じている。

学習支援としては、『学生生活のてびき』、シラバスなどを用いて学習や科目選択のためのガイダンスを組織的に行っている。基礎学力が不足する学生に対しての支援も行われている。

学生生活支援としては、学生委員会が職員の事務的協力を得ながら学生生活全般に関する業務に熱心に従事している。クラブ・同好会には専任教員の顧問を置いて支援している。

食堂・売店、保健室、学生相談センター等も整備され、通学支援としては定期巡回バスの運行を行っている。

進路支援としては、進路・就職委員会が中心となり、担任・副担任の指導と連携しながら学生の就職支援、進学支援を行っている。就職試験対策、就職相談、就職情報の提供等を行っており、就職状況は就職希望者のほぼ全員が就職できている良好な状況である。

学生支援については、学習、学生生活、進路などのどの面においても全学的かつ組織的にきめ細かく行われ、その成果をあげている。

評価領域Ⅵ 研究

各教員の研究活動はおおむね良好であるが、一部に研究業績が過去3ヶ年全くない教員が見受けられる。教員の研究活動状況の公開は年1回発行されている紀要『信愛紀要』のみである。

科学研究費補助金等の申請については、平成20年度は3件申請して2件採択されており評価できる。グループ研究として学科・専攻ごとにそれぞれ地域と連携した特色ある研究を行っていることも評価できる。

研究費、研究に係る機器、備品、図書等は整備されている。研究室の整備、週1日の研究日の確保もなされている。教員の研究成果を発表する機会として、全教員・全学生を会員とする会費制の学術研究会があり、研究活動の促進が図られている。研究活動の諸々の条件整備は十分とは言えないがおおむね整っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

建学の精神・教育理念に基づき社会的活動及び地域貢献活動が明確に位置付けられ推進されており、その取り組みは高く評価できる。社会人の受け入れは、科目等履修生や社会人特別選抜などにより意欲的に取り組んでいる。地域社会に向けて公開講座、文化講座を開講しており、公開講座の開講は35年の歴史があり定着している。高等教育機関コンソーシアム和歌山と連携して、「観光を主軸とした知の拠点形成のための戦略的大学連携」事業を行っている。その他、「きのくに県民カレッジ」と連携した文化講座を始め種々の地域社会との交流・連携が行われており、地域貢献への相当な努力がなされている。

学生の社会的活動としては、建学の精神にのっとり学生の地域貢献やボランティア活動への参加を促し、保育科の学生を中心に多数の学生がボランティア活動に参加している。その活動に対して公的機関から感謝状を授与されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長は、附属中学校・高等学校の校長を兼任しているが、学長との連携・情報交換を緊密にしてリーダーシップを発揮するよう努めている。理事会及び評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催され、監事は規定に基づき業務監査・会計監査を行っている。

学長は教授会、運営会議等で教育研究上の事項についてリーダーシップを発揮している。

教授会は、学則に定める教授会規程(平成 21 年改正)に基づき開催されている。教授会の下に各種委員会（平成 21 年度再編と規程整備）が設置されている。

事務職員は、小規模なスタッフで多様な職務をこなしている。事務職員を外部研修に積極的に参加させているが、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動を実施する学内組織はない。事務室は整備されており、決裁処理も適切である。

教職員の就業に関する諸規程は一応整備されており、就業規則については改正がなされている。学校法人と教職員の協力体制が構築されるよう理事長、学長は努力している。教員と事務職員の連携は良好であり、各種委員会には教員だけでなく事務職員も参画している。

評価領域Ⅸ 財務

中・長期の財務計画の策定はできていないが、毎年度予算は適切に決定され、予算の執行及び出納業務は適正・円滑に実施されている。毎会計年度の計算書類、財産目録等は適正に記載・表示され、監事や公認会計士の監査を経ている。資産及び資金の管理運用は適正に行われており、理事会で報告されている。財務状況の公開については学内だけに留められており、その公開が望まれる。

学校法人の財務体質はおおむね健全である。過去 3 ヶ年の学校法人の資金収支は問題なく推移している。余裕資金も問題はない。中・長期の財務計画を策定して、将来にわたる健全な財務体質の維持に努める必要がある。

固定資産及び物品管理規程、図書館諸規程は整備されている。短期大学に必要な施設設備は整備され、その管理はおおむね適切に行われている。火災等の災害対策、防犯対策、コンピュータのセキュリティ対策もとられている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価は学則に明記され、教授会の下自己点検・評価委員会が設置され、委員会規程に基づき自己点検・評価が行われている。自己点検・評価委員会は学長、学長補佐、科長、専攻主任、各部長及び学長が任命した教員で構成されている。自己点検・評価報告書は過去 3 ヶ年毎年度発行され公表されている。

第三者評価を実施するために、学長、ALO、学長補佐、科長(専攻主任)、各部長から成る「認証評価委員会」を組織し、認証評価委員会の下にワーキンググループを置き作業に当たっている。今後の自己点検・評価活動については、学内の教職員全員が何らかの役割を担うようにして一致協力の下で行うことが望ましく、そのことにより教職員が一体となり、改革・改善が着実に実行できるものとする。